（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター　喜璃夢			
○保護者評価実施期間	令和7年　6月　1日	～	令和6年　7月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	31	（回答者数）	29
○従業者評価実施期間	令和7年　6月　1日	～	令和6年　7月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	24	（回答者数）	18
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　2月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通所を大切にし、母子関係を構築したうえで母子分離での支援に移行していること。	様々な活動を通して、親子の関係作り(愛着形成や距離感など)の支援を行っている。 ご家庭でもできる方法を保護者様と一緒に考え、子どもが戸惑いなく生活が送れるようにしている。	保護者様にはお子様と過ごす時間を確保してもらうため、療育中は、小さな弟妹はファミリーサポート等のサービスの方に来所して頂くよう提案している。
2	対応する支援者が、老若男女それぞれのスタイルでアプローチをかけることができること。	若手は元気に体を動かし、ベテランは穏やかに心を動かすなど、1つの視点で分析するのではなく多角的な視点でアプローチをかけている。	役割分担を効果的に行い、職員間の連携を図ることで、子どもたちに多角的に安定した支援をかけられるようにしていく。
3	食事(給食)の提供を行っている。	食べることは“生きること”の基盤となるため、食に関する悩みに寄り添い、子どもたちがたくさんの食経験を重ねられるよう、食育に取り組んでいる。	子ども未来園（保育園）への移行がスムーズに行えるよう、給食メニューは子ども未来園のメニューに準じて調理している。 保護者様向けに食育講座や実際に給食を食べる機会を提供している。 栄養士の管理の元、調理をしている。またアレルギー対応も行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスを行っていないので、交通手段を持たない保護者のお子様は利用が難しい。	制度上児童発達支援センターには送迎サービスはつけられない。国の制度改正を願っている。	これまでも、公共交通手段を使っての利用もしていただいているが、とても通所に苦労されている。 サービスの利用が必要なお子さんには送迎のあるなしに関わらず利用できる制度となって欲しい。
2	新規受け入れやご希望に合わせた利用日数などがスムーズにご案内できていない。	ご希望を受け入れていきたいが、安全面や定員超過しないようにしているため。	曜日や日数を調整し、希望を叶えられるように考えていく。
3	連絡帳に記載する時間が限られていて、細かいことを文書でお伝えすることが難しい。	子どもたちとの関わりを重視しているため、記録記載時間が限られてしまう。	送迎でないため。保護者様と必ず顔を見てお話しできるため、直接口頭で出来事を伝える事ができている。 LINEやホームページなども活かして、活動の様子が見えるようにする。